

民主青年新聞

DEMOCRATIC YOUTH NEWSPAPER

みどころ

若者憲法集会 高校生関連企画

6、7面

古典入門第2回

3面

物価高騰から暮らしを守るため、緊急の手だてを

10、11面

▶ ホームページ www.dylj.or.jp ▶ Eメール minsins@dylj.or.jp

大軍拡止め憲法を生かした社会へ

▶ 午後の集会の様。多くの青年が、熱心に小畑さんの話を聞いた(5月25日、都内)



5月25日、東京都内で「若者憲法集会2025」が開催されました。集会には600人以上が参加し、デモ行進(12面詳報)には1100人が参加して沿道の人たちにアピールしました。日本政府が押し進める「戦争国家」づくりを許さず、憲法を守り生かす社会をつくろうと、全国各地から多くの青年が結集した集会の様を伝えます。

(塩田悠玄記者)



◀ 集会で講演する小畑さん(5月25日、都内)

行動を呼びかける憲法28条

午後に行われた若者憲法集会のメイン企画では、日本婦人団体連合会会長で、全国労働組合総連合(全労連)前議長の小畑雅子さんが講演しました。

講演の最初に小畑さんは、昭和初期に劣悪な労働条件、労働環境を変えようと労働組合を結成しストライキを決行するも、弾圧を受け争議団を解散させられた、諏訪地方(現在の長野県岡谷市)の製糸業の女工(女性の工場労働者)について紹介しました。

小畑さんは、憲法が保障する基本的人権は「人類的な」と話しました。

ジェンダー平等と平和の実現は一体

小畑さんは、憲法9条(戦争の放棄と戦力及び交戦権の否認)と憲法24条(家族関係における個人の尊厳と両性の平等)の関わりについても触れました。

小畑さんは、全労連新聞での同志社大学の岡野八代教授との対談で、岡野さんが「9条を変えたい人たちは、みんな24条も変えたい。それは、戦争できる国ジェンダー平等と平和の実

集会参加者の感想から

憲法の基本的人権、平和主義と労働運動、ジェンダーの問題が強く結びついているということ、小畑さんが経験を基に語ってくださり説得力があった。要求を声にし、同じ思いを持つ仲間と力を合わせることで、少しずつ社会が変わっていくことに確信を持って語ってくださり勇気づけられた。

(神奈川)

小畑さんのお話で、私たちの生活、働き方、生き方を考える上でいかに憲法が大切か、そして今それが壊されそうになっていることを感じた。各地で世論づくりをがんばる青年の話も聞けて元気が出た。憲法を生かした政治に変える運動や、ネットワーク運動をがんばっていききたい。

(大阪)

もし憲法9条が変えられてしまったら、自分の身近な人など多くの犠牲が出てしまうこと、それを分かった上で「多少の犠牲は当たり前」という前提で、政府が憲法を変えようとしているのが恐ろしい。軍事費が増え、日本も確実に戦争へと近づいているという事実を周りの人に伝え、反対の声を大きくすることが、今の自分にできる平和への一歩なのだった。

(長野)

憲法が自分たちとどうつながっているのかが分かるメイン企画だった。小畑さんが紹介されていた労働者のこれまでの運動の成果が、日本国憲法に込められているということ、それを自分たちも引き継いでいかなければならないと思った。また、ジェンダーの視点から24条と9条を結びつけて捉えられているのは新鮮だった。

(徳島)

現は一体のものだといえ「と強調しました。

「戦争国家」づくりに抗する運動を

小畑さんは、少数与党の下でも、大軍拡と「戦争国家」づくりが、この間急激に進められていることを指摘。『誰かが犠牲になるのは当たり前』という社会をつくりたい改憲を目指す勢力にとって、憲法に基づいて、個人の尊厳と本質的平

参加者励ます青年たちのとりくみ

集会の最後には、民青同盟の西川龍平中央委員長が閉会あいさつとして「若者憲法集会2025」アピールを読み上げ、拍手で会場の参加者に受け止められました。

若者憲法集会2025

した。